

もみじ

-広島県山岳・スポーツクライミング連盟会報-



一般社団法人 広島県山岳・スポーツクライミング連盟

〒733-0011 広島市西区横川町2丁目4-17

電話・FAX (082) 296-5597

E-Mail : hgakuren@lime.ocn.ne.jp

URL : <http://hiroshima-gakuren.or.jp>

郵便振替口座 01380-6-37958

題字デザイン 今村みずほ

編集 西部伸也

本号内容

1. 広島岳連の遭難対策について
2. クライミングスクール（7/4 三倉岳）報告
3. 登山教室（6/26 食事講習会 濑野川公園、1年 6/27 広島南アルプス、7/17～18 高岳～聖山、掛頭山～臥龍山、2年 7/22～24 西穂高岳、蝶ヶ岳）報告
4. 岳連短信

1. 広島岳連の遭難対策について

（会長 山田 雅昭）

本来なら、夏山計画の準備に思いを巡らせている時節だと思いますが、コロナ禍のため昨年来から岳連の行事もほとんどが中止の状態が続いており、心からの登山を楽しむためにはもう少し時間がかかるのではないかと思っています。なかなか山に行けないこの時期だからこそ、広島岳連の遭難対策の現状をお知らせするとともに再度の注意喚起をお願い致します。

一昨年からのコロナ禍で多少の減少傾向にあるものの、警察庁生活安全局の 2020 年における山岳遭難の発表によると

・遭難者数：2,937 名、その内死者・行方不明者：299 名。

マスコミが言う、日本の年間登山者数を ≈1,000 万人と仮定すると 3,708 人に 1 人の確率で遭難が発生しているのが現実です。また、広島県内では、遭難者数 28 名の内、3 名の方が負傷されています。このことから、広島県は遭難者送り出し県であると想定され、県外の高標高の山への登山に対してはそれなりの心構えと準備をして出掛けましょう。

【お願い】

1. 登山計画書（岳連または、所属団体）、登山届（現地）を提出しましょう。
 - ・個人会員の方は、岳連事務所で登山届を管理しています。
 - ・日帰り山行の場合でも、「何時までに帰宅（連絡が無ければ）しかるべき者（処）へ連絡するよう！」伝言、メモ等を残しておく。

「添付書類」（10～11 頁に掲載）

1. 岳連サンプル登山計画書（各自アレンジして使用・雛形は岳連事務所にあります）
2. 岳連会員として山登りをする場合。最低限のマナーとして「日山協（JMSCA）山岳共済」山岳保険（救護費用・遭難捜索費用付き）に加入しましょう。

【遭難対策】

「添付資料」（12～14 頁に掲載）

1. ② 緊急時連絡体制表 ③ 遭難対策基金規定 ④（支出・融資）申請書
2. ② 緊急時連絡体制表
 - ・遭難とは：第三者に通報した時点から事故が遭難となる。
 - 遭難の場合必ず岳連に連絡する。（事後連絡可能）
 - 今回の緊急時連絡体制表は「もみじ」用に電話番号等の個人情報を削除しています。各加盟団体及び個人会員については、別個に配布致します。

③ 遭難対策基金規定

・「規定」について

規定作成当時の人達が「岳連加盟員はこうでなくてはならない」との想いで作成したもので、個人会員制度の導入や時代の移り変わりを考慮し、「岳連の遭難対策」を見直したらどうか?という意見もあります。改善の提案等がありましたらよろしくお願い致します。

2. 基金積み立て目標額(1,000 万円)は:広島岳連隊として海外遠征で遭難を起こした場合を想定して決定した。(現在の遭難対策基金は¥6,845,856 円)
3. 基金は:岳連主催事業は基金を使用することが出来る。その他会員の遭難事故については貸出をすることが出来る。
4. 近年警察、消防、自衛隊等の救助体制が充実してきたことと、山岳保険(救助、捜索費用付)の充実により、岳連遭難対策基金はまだ一度も使われた事はありません。
5. その他

過去、岳連として会員、その他県民からの要請により何度か救助活動、行方不明者の捜索活動に、時には300名以上の会員のボランティア活動を行ってきましたが、「明日は我が身」という事で、一度も費用を請求したことはありません。(遺族の方から感謝の気持ちという形で謝礼を受けたことはあります)

以上

クイックドローに安全環つきカラビナの支点を各自構築ラッペルの態勢まで。また立ち木スリングで支点を構築したトップロープでラッペルリングへの結び替えを行いました。

午後からはモアイクラック、ヒップクラックをトップロープクライミング。F67 からフォーリンラブまで FIX ロープを張りフリクションヒッチで支点通過。猫の悲鳴でラッペルを行いました。

途中霧雨もありましたが大きく崩れる事なく無事終了しました。(指導部 塩田 徹)

【感想文】

(受講生 沖元 泰使)

6月がコロナのため中止となり、2ヵ月振りのスクールとなりました。コロナの壁は乗り越えたものの、中止になりそうな微妙な天気で不安でしたが、幸い雨に降られず岩を触ることが出来ました。今回も源助崩れでの講習となりましたが、前日までの雨の影響で岩が濡れており、午前中はトップロープの支点構築、構築した支点を解除するための結び替え、のやり方を教えてもらいました。午後からはモアイクラックとヒップクラックをトップロープで登らせてもらいました。また、待ち時間を利用してラッペル、FIX ロープの通過を練習しました。それぞれの行動を頭では理解するものの実際にやってみると、掛けたカラビナのロックをし忘れることがあります。こういったエラーはしっかりと無くしていくかなくては重大な事故に繋がってしまうとよくよく心得ておかなくてはいけません。

午後からのクライミングでは、相変わらず力の抜きどころを考える余裕がなく、スタートから力を入れっぱなしの全力投球で恐怖と戦いながら取り付くので、幾らも登らない内に腕、脚が限界になり、一見クライミングの状態ですが、その実吊られてる感を腰に感じていました。今回もモアイクラックの最後の被っている岩までは登れたものの、ここに到達するだけで力を使い果たしてしまい、塩田さんから手順を教えてもらったものの、身を乗り出す恐怖心と残り僅かな体力では乗っ越すことが出来ず、ギブのコールで下ろしてもらいました。帰宅して撮ってもらっていた動画を見ると、カチコチのぎこちない動作で面白動画の仕上がり

2. クライミングスクール報告

(指導部長 森本 覚)

7/4(日)

場所:三倉岳 源助崩れ正面

人数:17名 (スタッフ含)

講習内容

雨の心配をしつつ源助崩れ正面まで行きました。

クライミングスクールは次回9月になるので、それまで自分達でトップロープ支点を構築、クライミングができるよう、2班5名でハンガーボルトでスリングクロープヒッチでの支点、クイックドローでの支点、

となっていました。次回はもうちょっと肩の力を抜いて周囲をしっかり見れる余裕をもって臨みたいと思います。

下山後解散前に塩田さんからロープなどクライミングに必要な道具を一式持っている人はどんどんトライしたら良いが、現場に臨んで支点の構築など安全を確保するための手順が完璧に出来るのでない場合は、決してやってはならない（だろう、だったかな？はNG）とアドバイスをいただきました。一つのエラーが死に直結するのでこれは肝に銘じておかねばと強く感じました。

（受講生 吉部 恵理）

梅雨時期で週末は雨予報。再び炊事棟の下でのロープワークになるだろう…2ヶ月ぶりなのでそれもよし？と前日まで思っていましたが、一日曇りで幸いでした。

3回目の講習は「支点の設置・回収、フィックスロープの支点通過（中折れオートブロック）、ラッペル、登攀」でした。いつも設置された支点は目にはしているのですが、まだ自分で構築することはないので、大変勉強になりました。講師陣のご説明の後、一人ずつ順番でやってみると頭で流れは理解しているつもりが、細い注意ポイントあり：

スリングの長さでの角度／荷重が変わる。カラビナにかけたロープの下側がクライマー。セルフは手の届く長さへ調整すること。トップロープを設置するときは、残置してある旧支点・ロープ等を使わずに、新たに作る必要があること等。書き切れないほどの情報が頭の中を通過していますが、一つづつ仕組みを理解しながら身に着けたいと思います。

時間がなくて私の組は登攀はモアイクラックのみで少々残念でしたが、前回登れた箇所まで進めず。2か月前出来たのが不思議なくらい難しく感じました。次回は勘を取り戻して最後まで登りたいと思います。

ビレイをしてもらう時、ロープの出し方・合図の出し方が人によって違うのも感じました。コミュニケーションが大事ということがよく分かりました。

合図は大きい声で確実に出すこと。「張ってください。緩めてください。ロープをください。登ります。降ります。ロワーダウン。テンション！」その場で色々な表現があります。基本操作を身に着けると共に合図の出し方を早く覚えようと思いました。

たくさん的人がいるエリアでは、誰に向けて言っているのか分からなくなるので名前も呼び掛けて行うとよい。「セルフをとりました！」は設置したのか解除したのか分からないので、言う必要ない等。

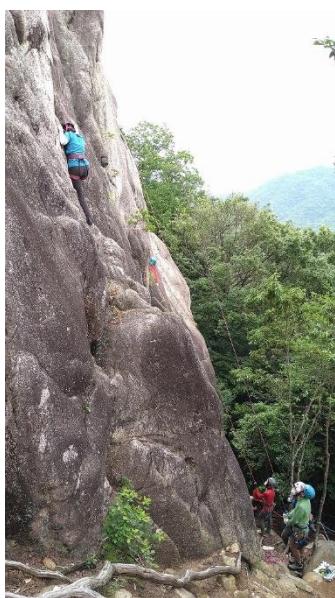
最終的に登る人が安心して専念出来るように、迅速に円滑にロープを出せるようになりたいと思います。

講習会は経験豊富なスタッフ陣の一言一言が有り難い機会です。クライミングに触れて1年ですが、興味湧いて来ているので長く楽しめるとよいなと思っています。スクール1年生、頑張ります！今後ともご指導よろしくお願ひいたします。

講習外ですが、岩壁にスズメバチの巣があり蜂が飛び交って4匹くらい執拗に纏わりついで、怖い状態が続いていました。それが突然さっといなくなり…？数匹のオニヤンマを久しぶりに見ました。恐るべし天敵オニヤンマです！

最近、行く先で蜂に悩まされるので話題の「おにやんま君」が気になります。ポイズンリムーバーも忘れずに必携します。





(写真提供 塩田)

3. 登山教室報告

(指導部長 森本 覚)

広島県に緊急事態宣言が発令されていた為、2年6/12～13伊予富士、赤石山を中止にしました。本来は6/19～20の救急法研修会の時にテント泊の食事の講習を行うのですが、今年度はそれも中止となり6/21に解除になった時点で課外で6/26に瀬野川公園のディキャンプ場で食事講習会を実施する事にしました。施設の指導に伴い定員4名で行い他の受講生には動画配信しました。

6/27は1年生の山行で大町駅から新井口駅まで広島南アルプスを歩きました。コロナ自粛の影響で体力の低下を実感しました。

6/26(土)

登山形態：食事講習会

山域：瀬野川公園

人数：4名 (スタッフ含)

【感想文】

『食事講習会に参加して』

(登山教室1年 島崎 瞳子)

6月26日土曜日、瀬野川公園に6時に集合。明日の広島南アルプスの登山があるので、早く終わるため、早い集合でした。私は、家から20分ぐらいでしたので、問題なく行けました。

新型コロナ感染拡大防止集中対策中のため、人数を抑えられていて、参加した1年生は、カモトさんと私の2人で、あとリーダーの森本さんとサブリーダーの小家石さんの合計4人で行われました。食事講習の前に、散歩程度の山と言われて、水丸山(659.8)に登りました。久しぶりの登山で、汗だくになって、しっかりと登った感はありました。この後の食事の楽しみのために、水分補給のみで、行動食はとらずお腹を空かせていました。

小家石さんが用意してくださったメニュー表、レシピ(手順表)を見てビックリ。必要な水の量、材料の重さ、誰でも作れるように手順表が細かく、わかりやすく書いてあったのです。食事当番になったら、ここまでしないといけないとのこと。今回のメニューは、ちらし寿司、切り干し大根のトマト煮、オニオンスープ風スープ、海藻サラダ、コーヒー、ほうじ茶で豪華でした。作り方は、難しくなく、簡単に満足のできるメニューでした。小家石さん手製のミックスベリーシャーベットの差し入れもあり、フルコースのようでした。美味しいかったです！！ありがとうございます。

使用する用具、メニューを考える時の留意点などたくさん教わりました。山に持っていくので、材料は、できるだけ軽く、腐らないもの。水の手配はどうするか。ゴミをできるだけ出さず、作りやすく、栄養のバランスがとれていることなど考えないといけないとのこと。

いろいろな知恵を体験しました。乾物の利用。排水溝のネットをザル代わりに利用。ジップロックを容器

として利用。戻し汁は捨てずにスープに利用。調味料は小さい容器に小分けか少量パックを利用。使った食器、調理器具は、原則、洗わずトイレットペーパー、キッチンペーパーで拭き取る。油よごれは、ほうじ茶を沸かした後のパックでふき取るときれいになる。などなど・・

使う材料、使う用具、作り方などたくさんのアイデアを実際体験して、とても勉強になりました。参加してよかったです。いろいろ縛られた食事ですが、お湯をかけて終わりでなく、ちょっと手を加えることで、リッチな気分、みんなで作って食べる楽しさも味わえると思いました。これから、スーパー行ったとき、いい食材がないかみてしまうでしょう。家に帰ってからも、いろいろメニューが頭の中にめぐっていました。

食事講習会のあと、8月の沢登りの用具の説明もおこなわれました。

今回、参加出来なかった人の為に、カモトさんにより、動画撮影が行われました。

ありがとうございました。

1年生（第2回） 6/27(日)

登山形態：日帰り山行

山域：広島南アルプス

人数：10名（スタッフ含）

【感想文】

『2021.6.27 登山教室（広島南アルプス）』

（登山教室1年 李 京子）

コロナ自粛期間を経た二ヶ月ぶり登山の課題は、歩荷12kg以上での20km縦走。その間毎日山に登っている気がしていたが、鍛えられていたのは自分ではなくテレビの中の人でした。当の私は当日朝、駅の階段で早々に息が切れ、夜また無事に帰って来られるのだろうかと悲壮な心持ちとなる。

朝7時、JR大町駅集合。住宅街わきの登山口から最初に目指すは武田山。毛利の時代に入るまでのおよそ300年、安芸国（のちの広島県）の政治経済の中心地として栄えた中世山城だったそうだ。今日では憩の森として、山頂まで様々なルートや史跡が続く。真夜中に激しく降った雨は幸いにして上がり、雨露に陽が射して緑が美しい。

趣のある雰囲気にすっかり魅了され、足取り軽くなる。最後に砦のような岩を越えると山頂が見えた。メンバーの一人と山頂での粹な合流。太田川に市街地、海まで見渡せる。

この山でゆっくりしたいところだが、先は長い。水越峠を経て、この日の最高峰である火山を目指す。気温も徐々に上がって蒸し暑い。お湯ではなく氷を持参すべきだったと後悔する。市内にほど近いこのハイキングコースは歩き易く、歩くどころか走る人、二輪の人さえいた。

権現峠を経て丸山に向かう途中、石山山頂の岩間に巣を作っていたスズメバチにメンバー二名が襲われる。ポイズンリムーバーによる応急処置で事なきを得る。蜂に刺された箇所は、翌日の腫れと炎症をピークに徐々に治まったそう。

大茶臼山の展望岩では、圧巻の見晴らしをよそに、地形を生かして予定外の懸垂下降講習が組まれた。ロープとスリング、カラビナを初めて用いて岩を下ったが、照り付ける西日を遮るものがないこの場所は、それでも暑かった。

己斐峠に下り、柚木城山に入る。この日多く「たお」と読ませていた「峠」とは鞍部であり、尾根越えの道が通じている所であることを認識した。かつて峠は国境、その先は異郷の地であったと言う。歩くのにいい加減飽きてきたが、これでようやく後半、異郷の世界に突入とは。

気が遠くなりかけたところに「歩きよーりや着くよ。」とのリーダーの一言。肩の力が抜け、それからはただ無心に歩く。希望の光は、見越山を越え、田方に下った所にあるという自販機。ここで全員、冷たい飲料で一息ついて生き返る。

鬼ヶ城山に入ると、一面竹林の幻想的な雰囲気。山頂からの展望も素晴らしいが、この日最後の山である鈴ヶ峰がどうとう姿を現した。すでに予定より一時間遅れだったが、最後まで計画通り歩くという計画である。辺りは暗くなつて一人ならとつと帰るところを、仲間とただひたすら歩く。そして19:30の日暮れ時間に合わせたかのように、最後の峰を踏破。

山頂にいる間にみるみるうちに日は暮れ、山下に夜

景が広がった。6つの川が瀬戸内海に繋がっている。山と川と海を抱く広島の街は美しい。市街地の灯りが徐々に増え、辺りは真っ暗に。そしてリーダーを先頭に、ヘッドライトを点けて遊歩道を一列に下山する。麓の団地に降りるまで、猪に二度遭遇。夜の山の珍客を悠々と眺めていた。

JR 新井口駅から電車に乗り、帰宅すると夜10時過ぎ。長い一日だった。一歩一歩が 20km 以上にもなった。スタッフはじめ皆に感謝したい。



(写真提供 森本)

1年生 7/17(土)～18(日)

登山形態：テント泊山行

山城：高岳～聖山、掛頭山～臥龍山

人数：11名 (スタッフ含)

広島県の新型コロナ感染拡大防止集中対策が解除されましたので、登山教室のテント泊山行を実施する事にしました。感染防止対策として個別テントを設営し、1年生は食糧計画の指導の必要性があるので夕食と朝食をマスク着用で共同炊事を行いました。今回は距離こそ歩いていませんが、各自でテント装備を担いで歩く事が出来ました。 (森本)

【感想文】

『聖湖テント泊に参加して』

(登山教室 1年 オバラ ヨウコ)

7月の登山教室は「テント泊を体験しよう！」というものでした。初めて体験するテント泊で、色々テント泊装備をそろえることから始まりました。登山・テント泊の装備の講座を撮影した動画やテント泊調理の動画を見て揃えていきました。動画は何度か確認できて有難かったです。指導者皆さんの経験から、私たちの山行に合った品を紹介してくださるので迷わず適切な道具をそろえることが出来ました。一通りそろえた時、これだけの荷物をザックに詰めて背負って歩くのかと不安になりました。

今回私は夕食食事係担当でした。決められた重量(200g/人)に収めてメニューを考えるのは慣れないことで大変でした。ちらし寿司・切り干し大根他野菜炒め・おつまみ子持ちシシャモ・卵スープにしました。ちらし寿司には家庭菜園の青紫蘇・ミョウガを入れたら香りがいいと喜んでもらえました。生卵持参の卵スープはやはり味が違うねといつもらえました。

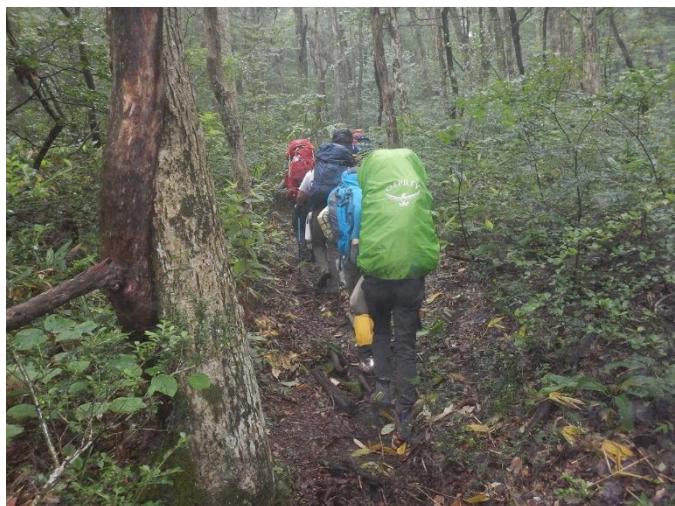
しかし生卵を運ぶと言うと、スタッフの方から割れでリュックに漏れて大変なことになるとアドバイスを受けました。私は挑戦してみたくなり、卵をラップにくるみ卵ケースに入れてジップ付きパックに入れ、無駄な体重移動をしない歩行訓練のつもりで登山しました (結果〇)。そして思いがけず卵ケースが寝るときの枕の芯になりました。

登山教室テント泊では、通常アルファ米は70～80

g 使用だそうですが、1袋 100 g (お茶碗2杯分、366カロリー) でも登山後のエネルギー補給にはいいように思えたので、100 g でちらし寿司を作つて食後感想を聞いてみました。10人中4人は適量、6人は多く感じたようです。この結果から、メニューによって各自の判断で行動食としてミニカップ麺等用意すればいいと思いました。

食材のゴミは翌日歩荷することになるので減らすようにとアドバイスを受けました。今回私のザック50ℓで小ぶりなのでゴミは車に残置してしまいました(すみません)。

連日の 15kg 近くの歩荷登山で不安でしたが、無事皆で計画通りに縦走出来て本当に良かったです。スタッフ皆様、登山教室皆様、みんなで歩くから完歩できました。有難うございました。これからもよろしくお願いします。



(写真提供 森本)

2年生 7/22(木)～24(土)

登山形態：テント泊山行

山域：西穂高岳、蝶ヶ岳

人数：8名 (スタッフ含)

2年生は今回やっと県外へ遠征する事が出来ました。感染防止対策として個別テント、個別炊事で実施しました。コロナ自粛で正規のトレーニングができなかつたので縦走をせずにベースキャンプ型で計画しました。初日に夜間の移動から直ぐに登山開始という行動パターンを事前に体験出来て無かつたのが大きく影響した様です。 (森本)

【感想文】

『7月山行（西穂高岳、蝶ヶ岳）に参加して』

(登山教室 2年 高田 正剛)

新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言の影響により、登山教室では初めての県外遠征になりました。通常であれば6月にチチ遠征と称して四国の山でテント泊山行を実施し、山行前夜の車両による移動、寝不足での登山、広島では登ることができない険しい山を経験し、7月のアルプス山行に備えるのですが、私達は、これらの準備無しでいきなり本番を迎えることになりました。

西穂高岳の標高は、2,909m。今まで私が登った一番高い山は、登山教室で登った恐羅漢山 (1,346.4m) ですが、西穂高岳の上りの累積標高差は1,435mで登山教室 (2021年3月 白木山～鬼ヶ城) の1,752mよりも少ないこと、ヨーロッパ旅行のときにロープウェイで

登ったエギーユ・デュ・ミディ山頂駅（3,777m）でダッシュした時もまったく苦しくなく平気であったこと、20代の頃から血液検査で赤血球の数が多すぎると指摘されていたことから、私は問題なく西穂高岳に登ることができるとの根拠のない自信を持って今回の山行に参加しました。

1日目

西穂山荘までの樹林帯は広島の里山と違って涼しくて快適でした。広島の夏の里山では15分ごとに水を飲み、1時間を目安に塩分補給をすることにしているのですが、西穂への登りは快適であったため、塩分や水分の補給がおろそかになっていたと思います。塩分の補給については、いつも持ち歩いている岩塩をベースキャンプに忘れていたことも影響していたと思います。

体調不良のため、西穂山荘から丸山までの登り（11時30分頃）でIさんが別行動になりました。そして、丸山から独標への登り（12時15分頃）でYさんが別行動になり、午後から雷雨になるおそれがあるため、先行することになった沖元さん、山奥さん、私のチームは、13時30分になった時点で引き返すことになりました。

独標への上りでは空がよく晴れていたので、13時30分に引き返す必要はないのではと思ったりしましたが、独標直下で松本深志高校の慰靈碑を見て、ここは落雷で多くの人が亡くなった場所であることを思い出し、13時30分には引き返さなければならないこと、そのためにピッチを上げて岩稜帯をすばやく通過しなければならないことを改めて確認しました。

13時30分で引き返すことが決定された時点では時間内に西穂高岳に行けると思っていたのですが、丸山以降、特に独標からの岩場の通過に時間がかかってしまい、13時25分、西穂VII峰ピラミッドピークで私の西穂高山行は終わってしまいました。

西穂VII峰以降の鎖場やナイフエッジを経験できなかつたことはとても残念ですし、3,000m級の夏山の一般ルート（岩稜）を歩けるようになることという、登山教室の目標を達成することができなかつたことをとても残念に思っています。

また、独標から丸山への下りの途中で水分補給を怠ったつけを払うことになり、ハムストリングのけいれんでスタッフの沖元さんにストレッチングやテーピングをしてもらわなければならなくなりましたので、現時点では自分はまだまだ力量不足であることを思い知らされました。

2日目

5時7分（計画では5時ジャスト）に小梨平キャンプ場を出発し、ほぼ予定どおりに蝶ヶ岳ヒュッテに到着し、午後から落雷のおそれがあるため、初日と同様に蝶ヶ岳ヒュッテからのピストンに計画が変更されました。

前日、脱水症状のために足がつっており、徳沢で靴紐を結びなおした時に足がつりそうになったと感じたので、蝶ヶ岳ではできるだけ歩幅を小さくし、上り下りの段差を最小にすることに心がけて歩きました。

その成果でしょうか、途中で足がつることはなく、翌日に筋肉痛にもなりませんでした。怪我（半月板損傷等）の影響もあって、これまでの登山教室では必ず膝痛や筋肉痛に悩まされていたのですが、今回の山行ではそれが全くありませんでした。完全テント泊装備と比べると今回は装備重量がかなり軽かったのですが、冬山山行に備える9月以降のテント泊縦走はきっと大丈夫と少しですが自信を持つことができるようになりました。

今回の山行では現時点での自分の力量を知ることができると同時に、自分に足りないところが、まだまだたくさんあることを知ることができました。

これからも、自立した登山者を目指して頑張りたいと思っています。スタッフ及び受講生の皆様、よろしくお願ひいたします。





5. 岳連短信

1. 寄贈御礼

福山山岳会『会報』R3.8月号

三原山の会『筆影』No. 497（8月号）

広島山岳会『山嶺』第871、872号（R3.6, 7月）

広島やまびこ会『やまびこ』778, 779号（4, 5月）

東京都山岳連盟『とがくれん通信』2021年2号

2. 8月・9月の県民ハイキング中止のお知らせ

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、下記のように予定していた8月、9月の県民ハイキングは中止とします。

8/22(日) 龍王山（東広島市西条町）

9/ 5(日) 小室井山

編集部より

○この会報は、皆さんの提出原稿を編集して発行しています。岳連行事・山の情報・行事参加の感想など気軽にお寄せください。寄稿の場合は所属、役職を記入下さい。編集の都合で一部手直しがあります。ご了承ください。

○会員団体で会報発行されたら岳連事務局まで恵送下さい。隨時紹介します。

○この会報はメール配信しています。配信ご希望の方は岳連事務局までメールアドレスをお知らせ下さい



（写真提供 森本）

登山計画書（登山届）

年 月 日

(一社) 広島県山岳・スポーツクライミング連盟 御中

団体名	緊急連絡先
所 属	氏 名
代表者氏名	住 所
代表者住所	電 話
代表者電話	救助体制
捜索費用にあてる保険加入の有・無	保険会社名

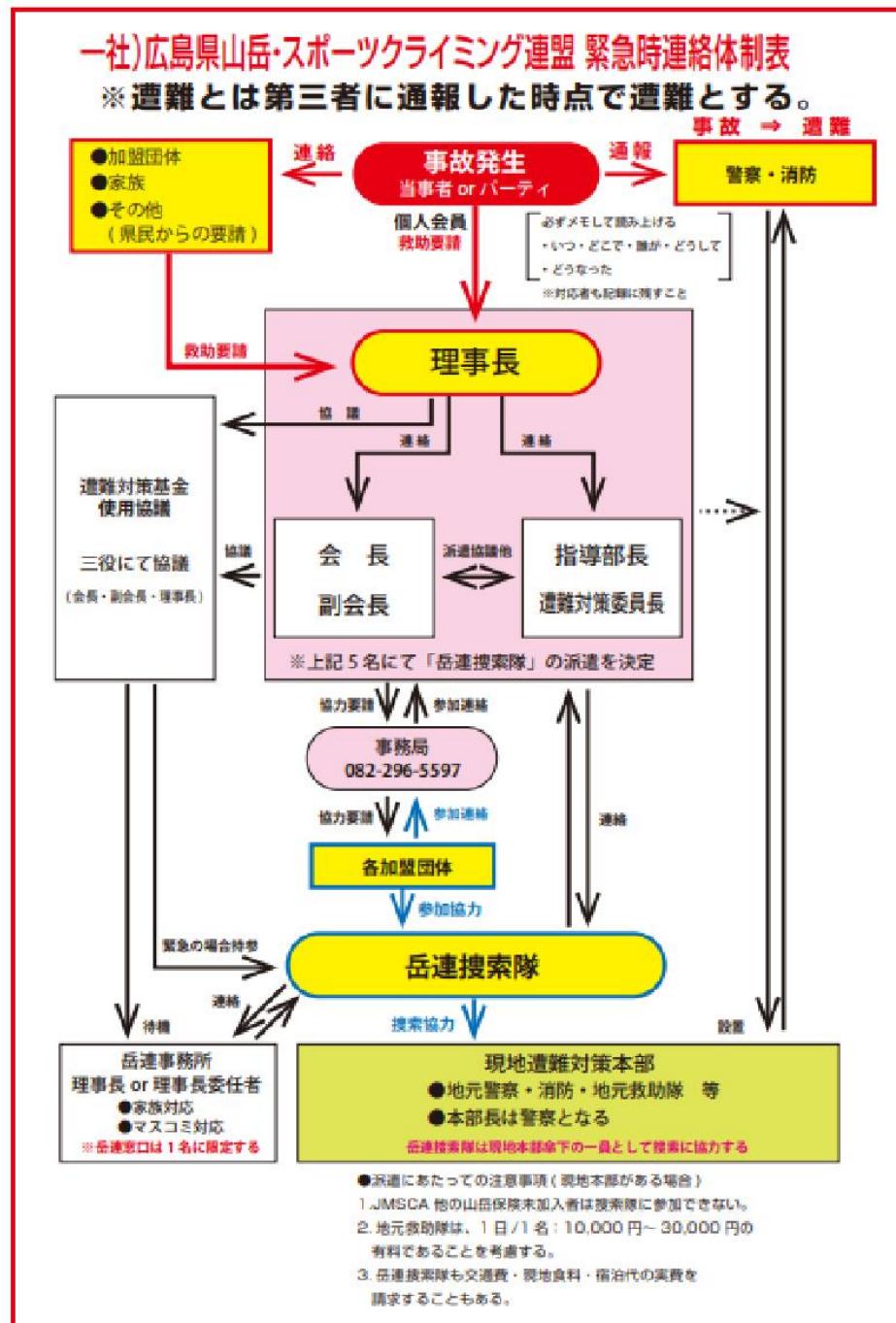
山名(山域)と目的		年 月 日～			最終下山日	
任 務	氏 名	所 属	年齢	住 所	緊急連絡先・氏名	
	コールサイ ン			携 帯 電 話	住所または電話	
L						
SL						

(概念図)

装備	
テント（型・人用・張）	
ツェルト（人用・張）	
ロープ（m・本）	
通信機器（台・MHz）	
代表携帯電話番号	
食料（日分）	

(その他連絡事項)

広島県山岳・スポーツクライミング連盟では下表の緊急時連絡体制をとっています。



注: 本表は一般公開用の為、個人情報を削除しています。各加盟団体及び個人会員の皆様には情報を公開しています。

**一般社団法人広島県山岳・スポーツクライミング連盟
遭難対策基金規定**

（設置の目的）

第1条 広島県山岳・SC 連盟は、会員の遭難対策費用に充てるために遭難対策基金（以下「基金」という。）を設置する。

（1）遭難の定義：山行中の会員から救助の要請があった場合。または、公的機関（警察・消防）に対し、第3者から捜索救助要請がなされたものをいう。

（基金の管理）

第2条 基金及びその果実は特別会計とし会長が管理する。会長は会計年度毎に決算を行い、その結果を総会に報告し承認を受けなければならない。

（基金の財源）

第3条 基金の財源は、果実、広島県山岳・SC 連盟本会計からの積み立金及び寄付金によるものとする。

（基金の積み立て目標額）

第4条 基金の積み立て目標額は、1,000万円とする。

（基金の運用）

第5条 この基金は、次の各号の一に該当する事項に対し、支出または、融資することができる。

（1）岳連行事の場合は基金を取り崩し支出することが出来る。この場合、当事者に対し山岳保険還付金以外の請求はしない。

（2）遭難した会員の捜索救助他にかかる費用（以下「融資金」という。）に充てる場合。

（3）緊急を要する場合は、会長・担当副会長・理事長の3役協議で支出・融資をすることが出来る。

（4）融資金は、無利息で融資する。

（支出・融資の申請）

第6条 支出金は会長が申請する。また、融資金申請は、遭難した会員、会員の家族、加盟団体長が申請を行う。

（債務の保証）

第7条 融資を受ける会員、会員の家族、会員の所属する加盟団体長は、責任を持って債務を保証するものとする。

（融資金の償還期限）

第8条 融資を受けた者は、融資を受けた日から起算して12ヶ月以内に全額を返済しなければならない。

（規程の改正）

第9条 この規程の改正は、理事会において出席理事数の過半数で改正することができる。

附則

（施行期日）

第1条 この規程は、平成24年1月11日から施行する。

第2条 この規程の施行の際、現存する（一社）広島県山岳・SC 連盟遭難対策積立金は、全てをこの規程上の基金として継承する。

（一社）広島県山岳・スポーツクライミング連盟遭難対策基金
(支出・融資)申請書

広島県山岳・SC連盟会長様

年 月 日

借受人 住所

氏名 _____
_____ (印)

借受人と遭難者との関係 本人・(続柄)

遭難者の所属団体名 _____

所属団体長 氏名

_____ (印)

遭難者 氏名 _____

私はこの度、広島県山岳・SC連盟遭難対策基金規程に基づき、上記遭難者の搜索救助の経費に充てるため、総額 金_____円の融資を受けました。

なお、返済については、下記の条件を責任をもって履行いたします。

この融資金の返済は、融資額、金額_____円を 年 月 日までに返済いたします。

領収書等貼付欄